



大鹿村の山城④ おおかわら 大河原城

大河原城(写真1)は、南北朝時代にこのあたり一帯を収めた^{こうさかたかむね}香坂高宗の館だったところと考えられています。^{むねなが}香坂高宗は、1344年に後醍醐天皇の第六皇子・宗良親王をお迎えし、守護にあたったことで知られています。

大河原城のある^{わぞ}上蔵地区は、鳥倉山の南斜面が地すべりを起こしてできた緩斜面上に発達した集落と考えられています(写真2)。このあたりでは^{りょくしよくがん}緑色岩という地すべりを起こしやすい岩石が分布しており、集落内では、福德寺をはじめ、緑色岩の石積みがあちこちで見られます(写真3)。

大河原城は、上述の緩斜面の縁辺部に位置し、南は比高80mの小渋川の断崖、東は黒岩沢(太田村沢)が谷を刻んでいる天然の要害です。北・西側は空堀が残っています(図1)。本郭部分の平地は狭小ですが、これは小渋川の侵食が激しく、崖の崩落が進んだためで、宮坂(2013)によると、かつては50m四方程度の広さがあったのではないかとのことです。(宮崎)



写真1 大河原城址全景

一段高いところが本郭、手前と左側の一段低いところが空堀。北西側から撮影。



写真2 鳥倉山の南麓の上蔵地区と大河原城



写真3 福德寺の空石積み

緑色岩を主に利用。

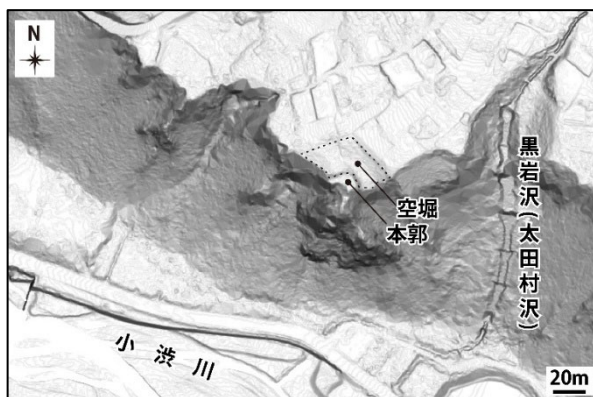


図1 大河原城周辺の地形

QGISにて長野県砂防部の0.5mDEMをもとに傾斜量を算出した図を背景に表示。色が濃いほど急傾斜で、色が薄いほど緩傾斜を示す。本郭、空堀の位置は宮坂(2013)を参考に記入。

◆参考文献

市村威人(1933) 史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾四輯, 長野県, p.131-168.

宮坂武男(2013) 「信濃の山城と館〈第6巻〉諏訪・下伊那編—縄張図・断面図・鳥瞰図で見る」, 戎光祥出版, p.464-465.

大鹿村誌編纂委員会(1984) 「大鹿村誌 上巻」, p.91-94.